

お取引先さま各位

## カカオ・チョコレート週刊ニュース 101号

2014/07/14 発行  
株式会社 立花商店  
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

### 1、市況の動き：欧州カカオ豆圧砕高統計の発表を受け小反落するも、週を通して小動き

① 最高：9月 LDN 市場£1,931 /9月 NY 市場\$3,116 (7/8) 先週比 **LDN+£17/NY-\$11**  
② 最低：9月 LDN 市場£1,912 /9月 NY 市場\$3,081 (7/9,10) 先週比 **LDN+£12/NY-\$25**  
週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£19 (傾向↑) / NY 市場\$35 (傾向↑)  
週内建玉推移：LDN市場 276,619 枚(7/4 終了時)⇒275,458 枚 (7/10 終了時) **-1161 枚**  
NY市場 214,508 枚(7/4 終了時) ⇒212,309 枚 (7/10 終了時) **-2199 枚**

【7月7日(月)】両市場とも小動き＝統計控え様子見

小動き。今週発表される欧州のカカオ豆圧砕高統計を控え、様子見気分が強まった。

ニューヨーク市場の9月きりは7ドル(0.2%)安の3099ドル、ロンドン市場の9月きりは変わらずの1924ポンドで引けた。欧州の第2四半期のカカオ豆圧砕高は10日に発表予定。前年同期比でほぼ変わらずから2%増と予想されている。

【7月8日(火)】両市場とも上伸＝買いの勢いは鈍る

ニューヨーク、ロンドンいずれも上伸。ニューヨークの9月きりは17ドル(0.5%)高の**3116ドル**、ロンドンの9月きりは7ポンド(0.4%)高の**1931ポンド**で引けた。先週は2014～15年度の供給不足予想に支えられたが、13～14年度西アフリカ産ミッドクロップの豊作が供給の増加予想を押し上げ、買いの勢いは鈍った。

【7月9日(水)】両市場とも反落

ニューヨーク市場は反落し、9月きりは29ドル(0.9%)安の3087ドルで終了した。コートジボワールの豊作が圧迫要因。

ロンドン市場も反落。9月きりは19ポンド(1%)安の**1912ポンド**で引けた。市場では、10日に発表される第2四半期の欧州のカカオ豆圧砕高に関心が寄せられている。

【7月10日（木）】NY続落＝ロンドン反発

ニューヨーク市場は続落し、9月きりは6ドル（0.2%）安の3081ドルで終了した。

ロンドン市場は取引終盤に上昇に転じ、反発。3ポンド（0.2%）高の1915ポンドで引けた。

第2四半期の欧州のカカオ豆圧砕高は前年同期比0.7%減と、トレーダー予想（横ばいから2%増）をやや下回った。

一方、世界全体のカカオ豆圧砕高は依然堅調とみられている。

マレックス・スペクトロンの農業部門の共同責任者、ジョナサン・パークマン氏は「北米は2～3%、アジアは約5%増加する見通しだ」と述べた。

【7月11日（金）】NYは反発＝ロンドン続伸

ニューヨーク市場は不安定な商いの中、反発。9月きりは9ドル（0.3%）高の3090ドルで引けた。

ロンドン市場は続伸し、9月きりは10ポンド（0.5%）高の1925ポンドで終了した。

## 2、アジア：ココアバターの取引は見られるも、第2四半期の圧砕高統計を様子見(7/11)

アジアではココアバターやココアパウダーの取引の動きは若干あるものの、夏季休暇に向けて取引のペースは鈍化している。また圧砕業者は、今週発表される第2四半期の圧砕高統計の発表を待って様子見をしているようだ。

増加しているココアパウダーの在庫をなくすために、工場が生産調整を行っているため、第2四半期の圧砕高は減少するという見解がある。しかし、こうした生産調整により昨年の12月以降、ココアバターレシオが最高水準に達しているという事実もある。

シンガポールのディーラーは「夏季休暇に向けて取引量がスローダウンしている。我々はパウダーを\$1,500～\$1,600で取引している。」と述べた。また「自分の感覚としては、市場にあまりにもたくさんのパウダーが在庫されている状況であり、このことが第2四半期の圧砕高を減らしていると考えている。ただし、その量がどれくらいかと述べるのは難しい。」と加えた。

マレーシア・ココア委員会は第2四半期の統計を7月14日に発表し、アジア・ココア協会はその2日後に資料を発行する予定となっている。

マレーシアの第1四半期の圧砕高は昨年比で13.6%減少し、6万2359トンとなった。これは圧砕業者がパウダーの在庫調整のために工場の稼働を抑えていることによる。ただしマレーシア、インドネシア、シンガポールの圧砕高を合計すると3.7%上昇している。

アジアのバターレシオは2.6～2.62であり、パウダー価格は\$1,500～\$2,100となっている。（先週のパウダー価格は\$1,600～\$1,800）

### **3、ナイジェリア：ミッドクロップの収穫に生産増の兆し(7/10)**

ナイジェリアのカカオ豆のミッドクロップの収穫期は少し遅れているが、生産量世界第4位のナイジェリアのカカオ豆の収穫に期待が高まっている。

ナイジェリアの Akure を拠点にカカオ豆の買い付けを行っている Olatunde International 社の Owofemi 氏は「カカオ豆の病気や悪天候などの被害の報告を受けておらず、カカオが順調に成長している。」と述べた。

ナイジェリアのココア協会によると、ナイジェリアの 2013/14 期のカカオ豆の生産量は昨年より 29 万 5000 トンより 5000 トン増加し 30 万トンとなる見込みである。

天候に恵まれカカオ豆の収穫量が伸びたことで、5 月のカカオ豆輸出量は 4 月より 38%増加し、4461 トンとなった。ミッドクロップ全体では 6 万 6000 トンになる見通しである。

ナイジェリアのカカオ豆の産地で雨が降るとの予測があり、その後湿度も下がり 8 月には十分な日差しも期待でき、カカオ豆を十分に乾燥させるのに役立つ。

### **4、カメルーン：南西部のカカオ豆、サイズが小さいも品質は良好(7/9)**

カメルーン南西部のヤウンデから輸出されるカカオ豆のサイズは、5 月と比べ 6 月の作物は小さくなったが、品質は向上した。

西アフリカの 3 か国が共同で運営している農作物監視会社（6 つの農産品を管理している。）の品質管理部門の担当者は「雨が少なく十分な日差しがあったので、カカオ豆を扱うにはちょうどよい条件がそろった。なぜなら輸出用のカカオ豆は水分値が 8%以下でカビの不検出が求められているから。」と述べた。

カメルーンのカカオ豆はドゥアラ港から輸出され、欧州が主な輸出先となっている。

6 月に収穫されたカカオ豆は 100 g あたり 86~92 粒で、5 月の 84~89 粒と比べ小ぶりとなった。

カメルーンにとってカカオ豆は原油に次ぐ収入源となっている。

2013/14 期は 22 万 8911 トンを生産し、2011/12 期より約 9000 トンの増加となった。また 22 万 8911 トンのうち 19 万 6778 トンが輸出された。

### **5、ガーナ：メインクロップ買い付け量、昨年比で 12.5%上昇(7/9)**

ガーナのカカオ豆買い付け量は、目標量をわずかに上回る 86 万 6742 トンとなり、昨年比で 12.5%上昇した。生産量は Cocobod が目標としている「メインクロップ生産量=85 万トン」をわずかに上回り、2010/11 期の 90 万トンにかなり近づいた。ちなみにこの 2010/11 期はガーナの年間生産量が 100 万トンを記録した時期である。

Cocobod は「天候の好条件が 2013/14 期のメインクロップの収穫量を押し上げた。もしもコートジベールへの密輸によるカカオ豆の流出がなければもっと高い数字が出たはずだ。」とロイターに告げた。また「我々は 90 万トンを超えられるだろう、ただし密輸による被害が悪影響を与えることも事実。」と述べた。

ガーナ産カカオ豆のコートジへの流出は 4 万～6 万トンと見積もられているが、これはガーナ通貨（セディ）が US ドルに対して慢性的に弱いことで、ガーナ豆とコートジ豆の間に価格差があることに起因している。

ガーナでは 7 月 4 日よりライトクロップの収穫が始まり、農家への最低保証価格であるトン当たり 3392 セディが支払われる。（約\$1,018）

## **6、コートジ：カカオ樹木が開花、来シーズンも豊作の兆候(7/8)**

コートジボワールのカカオ豆主産地では、先週降り続いた大雨で、来シーズンのメインクロップ期に収穫されるカカオ豆の樹木に花が開き始めた。農家とアナリストが 7 日、明らかにした。

同国では、ミッドクロップ期（4～9月）の収穫が今月末に終盤を迎える見通し。農家では、10月に始まるメインクロップ期に向けて準備を始めている。

2013～14年度のカカオ豆収穫量は過去最高水準になると予想されている。農家によると、樹木に多くの開花がみられ、来年も豊作の兆しが出ているという。

コートジボワールのカカオ豆生産の 4 分の 1 を占める、西部ダロアの農家は「降雨に恵まれ、開花し始めている。今月、雨が降り続ければ、収穫量は今年よりも多くなるだろう」と語った。南部ディーボやアグボビル、西部ガニョアやドゥエクエでも、来シーズンのメインクロップ期に向けて、良好な開花状況が報告されている。

## **7、コートジ：カカオ豆着荷量、6日時点で161万6000トン(7/8)**

輸出業者が 7 日公表した推計によると、2013～14年度（13年10月～14年9月）のコートジボワールの 2 港（アビジャン港、サンペドロ港）のカカオ豆着荷量は 6 日時点で約 161 万 6000 トンとなり、前年同期（134 万 2000 トン）を上回った。6 月 30 日～7 月 6 日の 2 港への着荷量は約 1 万 8000 トンとなり、前年同期の 2 万トンを若干下回った。

## **8、ベトナム：カカオ農家を支援＝海外からの直接投資が後押しに(7/8)**

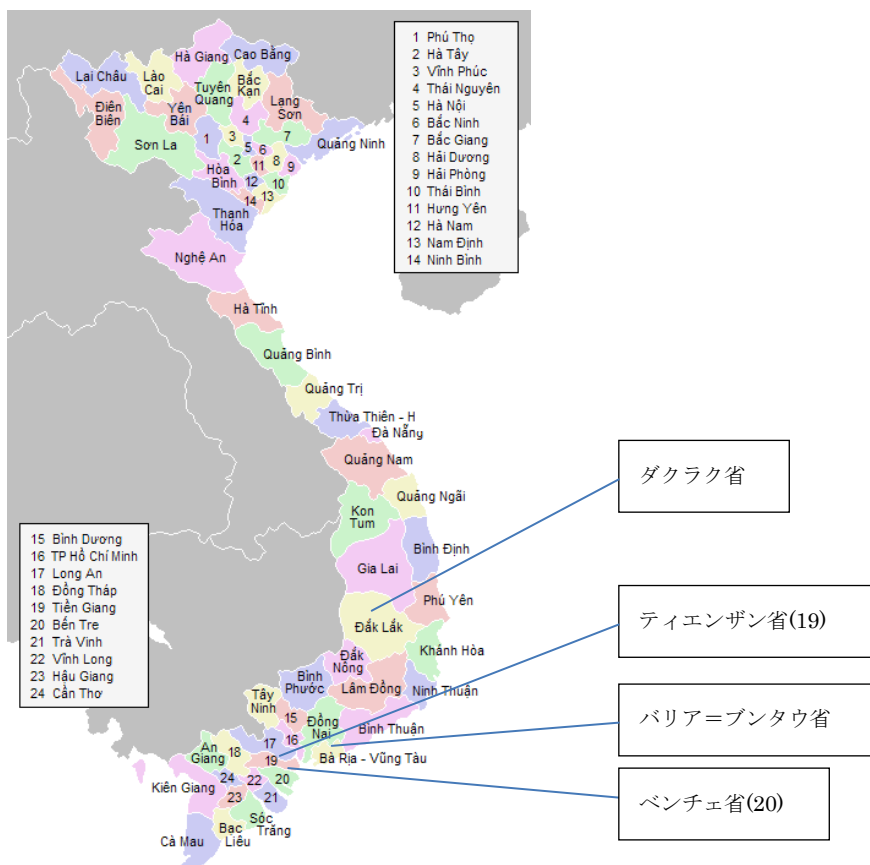
ベトナム最大のカカオ産地のメコンデルタ（地帯）のベンチェ省当局は、カカオの木とココナツの木を間作するために地元の農家を財政面で支援する見通しである。

農家は苗木を購入する為に苗木 1 本あたり 2400 ドン（約 11 USD cent）の支援を受ける。ベンチェ省は現在約 7300 ヘクタールの土地にカカオの木がなっており、バリア＝ブンタウ省は 2787 ヘクタール、ティエンザン省は 2578 ヘクタール、ダクラク省は 2578 ヘクタールと続く。

ベトナムはカカオの生育に理想的な気候帯であり、カカオ農家やチョコレート製造メーカーが増えている。チョコレート市場を牽引しているベルギーやオランダ、フランスは競ってカカオの加工工場をベトナムに設立しており、ベトナム産カカオ豆に対する需要が伸びている。

2013年にベルギー企業がベースとなったピュラトス・グランプラスが南部のビンズオン省を拠点に年間3000トン規模の向上を始動開始させた。またそれより前に、ベルギーのBelcholatが500トン規模の工場を設立している。Dutch Dobra Asiaは輸出用とベトナム国内向けに年間1000トンのチョコレートを製造している。同社のチョコレートはオランダ、ベルギー、米国、ベトナムでレストランやパン屋で使用されている。

外資の加工工場の件数が増加する中、ベトナムのカカオ豆価格が2013年比で20%上昇しkgあたり\$2.8~\$3.05となった。今後の問題としては、ベトナム国内にはカカオ農園を拡大するに十分な土地が無いということだ。ベトナムの近年のカカオ豆生産量は年間で5000~6000トンであり国内での需要の10%ほどしか満たしていない。ベトナムは高品質カカオ豆の新たなサプライヤーの1つとしての地位を確立している。ベトナムは2015年までにカカオ農園を51.5%増やし、3万3500ヘクタールにまで拡大させ、年間2万5000トンの生産量となることを目指している。



### 9、立花商店取扱い：今週のカカオ豆 ベトナム・ピュラトスグランプラス社

今週より不定期で立花商店で取り扱うカカオ豆、またサンプルでテイスティングをしたカカオ豆をご紹介します。今日は上記の記事で紹介されたベトナムのカカオについて紹介致します。

ベルギーに本社を置くピュラトス社とグランプラス社の合同会社が運営するベトナムで初めてのカカオ集荷加工工場。通常農家ごとに品質の違いが出る発酵と乾燥工程を、集荷工場にて一元管理することで常に安定した品質のカカオ豆を提供することができます。

2013年10月パリのSalon du Chocolat内で開かれるInternational Cocoa Awards(ICA)にてCocoa of Excellenceを受賞。通常受賞する豆は生産量が少ない小規模な農家のものであることが多いですが、この会社の現在の収穫量はおよそ900MTで2018年には7000MTに生産量をあげることが目標としています。カオ豆はすべて国により苗木の植え付け品種を管理され、トリニタリオ種単一と指定されています。収穫農地は南部メコンデルタ地帯、南東ハイランド地帯。

現在、手作りのショコラティエ様達に使っていただいている中で一番人気の豆になります。

発酵と乾燥が丁寧にされているために皮の剥がれが良いです。また味はレーズン、青リンゴ、ストロベリーと爽やかでフルーティな味わいが特徴。

豆サイズ：80—95粒/100g サイズ均一

水分値：7—8%

カビ豆率：1%以下

未発酵豆率：1%以下

選別不要

\*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545    w-ikuta@tachibana-grp.co.jp